

二〇二五年度

神奈川学園中学校入学考查問題

国語

(B日程)

時間 五十分

○問題は、一ページから十七ページまであります。

○テスト開始前に、問題用紙のページに脱落だつがないかどうか確認しなさい。

○解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

○文中からのぬき出しや答えに求められている字数は、各問いの指示に従いなさい。

特に指定がない場合は、句読点などの符号ふしごうを入れても入れなくてもよい。

問題一

次の(1)～(10)の——線部の漢字にはその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直して答えなさい。

- (1) セイセキを上げるために勉強する。
- (2) 勝利にウチヨウテンになる。
- (3) 彼はヒョウジュン的な体型だ。
- (4) センモン学校で学ぶ。
- (5) シュウカンシに連載する。
- (6) 類似商品に注意してください。
- (7) 都市計画を推進する。
- (8) その風景は筆舌に尽くせない美しさだ。
- (9) 個性の際立つ作品だ。
- (10) 道路にバリケードを築いた。

問題二

次の①～⑤の漢字の成り立ちとしてふさわしいものを、後の【語群】ア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じものを何度選んでもよい。)

- ① 泳 ② 田 ③ 明 ④ 晴 ⑤ 上

【語群】

ア 象形文字 具体的な物の形から作られた文字。

(例—竹、口)

イ 指事文字 象形文字に点画などの符号ふごうを加え物と物との関係の特徴を指し示した文字。

(例—一、天)

ウ 会意文字 象形や指事による文字を組み合わせて一つの文字を作り、より複雑な意味やことがらを表した文字。(例—筆、鳴)

エ 形声文字

すでにある文字を用いて、意味を表す部分と、発音を表す部分を組み合わせて作った文字。(例—姉、怖)

問題三

次の①～⑤のことわざの、☐にあてはまる漢字一字を、後の「語群①」からそれぞれ選び、ア～コの記号で答えなさい。また、

①～⑤のことわざとは対照的な意味を持つことわざを、「語群②」のA～Fからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

②のA～Fからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 大☐晩成
- ② 急がば☐れ
- ③ 鳶とびが☐を生む
- ④ 三人寄れば☐殊の知恵
- ⑤ 待てば☐路の日和あり

【語群①】

ア	周	イ	家	ウ	鷹 たか
カ	門	キ	雀 すずめ	ク	器
		ケ	文	エ	山
		コ	海	オ	回

【語群②】

A 思い立ったが吉日きもちじつ

B 蛙かえるの子は蛙

C 虻蜂あぶはち取らず

D 梅檀せんだんは双葉ふたばよりかんばし

E 船頭せんとう多くして船山せんざんに上る

F 善ぜんは急げ

問題四

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

窓から入ってきた風が（Ⅰ）顔をなでた。つめたくはない。涼しくはならない。でも気持ちがいい。こうも暑いと、なまぬるいそよ風さえ天の助けみたいに感じる。

バナミはむにやむにやと口を動かし、よだれがたれそうになっているのに気づいて慌てて口元を拭いた。危なかった。ちらりと顔を上げると廊下側の誰かが立ってぼそぼそと音読をしている。遠いからまだセーフだ。今日はこちらまで回ってくることはないだろう。あくびをひとつし、また手のひらに顎をうめ、目を閉じたところで背中を刺された。かなり強く、二回も。

「痛いんだけど」

洗面を向けると、庄司さんがシャーペンの先をこちらに向けて構えたまま片手で拜んだ。

「ごめん、これ」

差し出してくる紙切れを受け取る。雑に破り取ったルーズリーフの切れ端。折つてもいない、差出人も宛先もないそれには、おかつば頭のおばあさんが狂気（注2）の笑顔で天を仰ぎ、I am old miss! と叫んでいる絵が描かれている。思わず振り返ると庄司さんは（Ⅱ）顔を伏せ、その後の阿久津友美がにやりと笑って手を振った。

そういうやつね。

（注1）波面…不愉快そうな顔つき、しかめつら。

（注2）I am old miss!…「私はオールドミスです」。オールドミスとは結婚しないまま年齢を重ねた女性をさげすむ呼び方。

軽く頷いて向き直る。くっだらね、と心の中では呟くけれど、①口に

出すほど軽率でもない。太い黒ペンの落書き。嘲笑するためだけに描かれ、回されているそれは、幸か不幸かけっこう似ている。誰が描いたんだろう。美術部の子かな。才能あるな。他のことに使えばいいのに。

② こういうことは好きじゃない。バナミは（Ⅲ）目の前の背中をつついた。持っているだけでおどましい気がして、早く回してしまいたくて。

（Ⅳ）振り向いた原田さんに紙を押しつけようとしたとき、別人の指がひよいとつまんだ。コツコツコツ、③ ヒールの硬質な足音を、どうして聞き逃してしまったのか。

「ミス・原田、落とし物？」

黙って首を横に振った原田さんを見て、モリーは自分そっくりの落書きを持ったまま今度はバナミに笑顔を向けた。

「あ、ええと——すみません」

みんなの視線が集中するのを感じながらバナミは観念して頭を下げた。紙切れを返してもらおうと手を伸ばした瞬間、モリーはぱつと目を輝かせ、「まあ、これ、私？」と叫んだ。「そうよね、私ね。ありがとう、似顔絵を描いてもらえるなんて光栄です」

事態を察したクラスメイトたちがどっと笑った。モリーは感激した様子でたたみかけた。

「ミス・井上、デッサンがお上手なのね。よかったらこれいただいてもいいかしら、ぜひ職員室で自慢したいわ」

「いえ、あの……」

あたしが描いたわけじゃないんですけど。

そう言えばよかったのかもしれないが、バナミはなぜか言えなかつ

な発音でモリーの言葉を繰り返す。モリーが絵梨の発音を称賛し、ぜひお手本をやってほしいと頼めば、絵梨はその言葉さえも英語に訳してみんなの笑いを誘っている。毎回、毎回。

絵梨はアメリカ育ちの帰国子女だ。明るくて物おじしなない彼女はクラスのマードメーカーク的な存在で、悪いやつではないのだが、気に入らない相手にはひどく攻撃的になるタイプであるらしい。そして彼女の矛先は、ずっとモリーに向いている。

「いま何で言ったんですか？ 発音がへたすぎて聞き取れませんでしたあ」

「うけるー、アメリカじゃいまだきそんな言い方する人誰もいないんですけどお」

「まってまって、あんな発音じゃコンビ二で買い物もできないよ」

後方の一画で盛り上がる絵梨と取り巻きたちの笑いは、（Ⅵ）が広がっていくように教室の空気を少しずつ変えていった。控えめにもれる笑い声、何も聞こえなかったみたいに教科書を見つめる強張った顔、絵梨の発音をこっそりとなぞる眩き、モリーのカタカナ発音をことさら強調してふざける男子たち。ひそひそ声はしだいに大きくなり、笑い声にどんどん遠慮がなくなつて、いまに至るというわけだ。

みんながどんな態度をとろうと、モリーは全然変わらなかった。小さな顔に大きな笑顔を貼りつけたまま、わざとらしい大きな身振りを交えて楽しそうに話し続けた。不気味で、いやみで、憎たらしいモリー。

なんかいやだよ、こういうの。

そう思いながらバナミも居眠りをし、手紙を回した。だって眠気は止められないし、モリーへの反感もまた止められなかったのだ。

——モリーの何かが、あたしたちを猛烈にいらだたせる。場違いさ。

空回りのポジティブさ。あんなカタカナ発音で堂々としているところ。それでいてアメリカ人ばりの大げさな身振りを演じる滑稽さ。いい人そうなところ。馬鹿にされても平気な顔をしているところ。ミスで結構と開き直っているところも。

べつにきらいなわけじゃない。でも、なんだかいたたまれないのだ。気張っている感じがしんどい。つまり、気張って生きていかなければいけないということをあたしたちにいやおうなく見せつけることによって、あたしたちをたまらなくみじめにしている。それは正しくモリーの罪だ。

それに、どんなに馬鹿にされても彼女が全然堪えないのは、自分たちに何と思われようがかまわないと思っているからに違いないと、みんな認め始めていた。そしてそのことにちよつとだけ傷ついてもいた。どうせうちのことなんてどうでもいいんだ。モリーを拒否したのは自分たちのほうであるにもかかわらず、みんなますますモリーへの反感を募らせるのだった。

——それでもあたしは、そんなにひどくしなかったじゃないか。絵梨たちと一緒に笑ったりもしなかったし、わざと無視したりもしなかった。なのはどうして、あたしにだけ、モリーは恥をかかせたんだろう。

気を抜いたら、涙がにじんできそうだった。

バナミは悔しさと恥ずかしさ、それにわけのわからない悲しさでいっぱいになった胸を大きく上下させて深呼吸した。何度か繰り返したら、それらは涙でなく怒りに変わった。それでいい。⑧ だって、そっちはうが正しい。

——平戸萌『私が鳥のときは』

問一

文中の（Ⅰ）（Ⅳ）に入るもつともふさわしいものを次のア～エから選び、それぞれその記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度しか使えません。

ア せっかちに イ 怪訝（けげん）そうに
ウ かすかに エ 慌（あわ）てたように

問二

——線部①「口に出すほど軽率でもない」とありますが、このときのバナミの考えとしてふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、その記号で答えなさい。

ア もし聞かれたら、手紙を渡してくれた子を悲しませてしまうかもしれない。

イ 口に出せば、メモを回したクラスメイトの反感を買い立場が悪くなりそうだ。

ウ こんなことにいちいち反応すると、かえって面白がられてかわれるだろう。

エ いま声を出して目立つと、クラスメイトのいたずらにまきこまれ叱られてしまう。

問三

——線部②「こういうこと」とありますが、その内容を説明したものとしてもつともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア ある分野で才能のある人が、その才能を良い方向に働かせることができないこと。

イ 口に出すのをためらうような悪事に、自分の意志に反して自分が加担させられること。

ウ 授業時間内に、勉強とは関係ないことで自分の学習が中断させられること。

エ 悪意を持って人をからかうような内容を、本人に隠れて皆で共有すること。

問四

——線部③「ヒールの硬質な足音を、どうして聞き逃してしまっただのか」とありますが、このときのバナミの心情としてもつともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 手紙の落書きのおもしろさに夢中になっていた自分の幼稚さに驚いている。

イ 回ってきた落書きに気を取られていた自分の不注意さを後悔している。

ウ 普段の授業中とは異なり集中力を欠いた自分の状態を不思議がっている。

エ モリーの目の前で手紙を回そうとした自分の間抜けさ（まぬけさ）をおかしく思っている。

問五

——線部④「そうする資格がないような気がした」とありますが、これはなぜですか。その理由としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 無邪気(むじょうき)に喜ぶモリーに罪悪感を覚えながらも、真実を知らせる気はなかったから。

イ 自分は好きではないと感じながらも、絵を描いた友人に遠慮して言わなかったから。

ウ 誰が描いたかわからないながらも、絵が本人に似ていることに好感を持っていたから。

エ 自分もクラスメイトの手紙を回すことを不快に思いながらも、止めなかったから。

問六

——線部⑤「そこでみんなは彼女をミス・守谷と呼ぶようになった」とありますが、そうなった理由を説明したものとしてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 生徒はモリーの話を聞いて新しい時代に合った呼び方をしたいと考えたため。

イ クラス全体が積極的にモリーから教わったことを実践(じっせん)しようとしたため。

ウ 未婚の老齢女性であるモリーをそう呼ぶことで陰でからかいの対象にするため。

エ モリーの「教室では」という指示の逆の行動を取ることで彼女を傷つけまいと考えたため。

問七

文中の(Ⅴ)・(Ⅵ)に入るもっともふさわしいものを後のア～エから選び、それぞれその記号で答えなさい。

(Ⅴ) ア 安全地帯 イ 危険地帯

ウ 無法地帯 エ 無風地帯

(Ⅵ) ア カビ イ 波

ウ ブーム エ 霧(きり)

問八

——線部⑥「『リピート・アフターミー』『Repeat after me!』とありますが、これらのセリフの表記の違いについて説明したものとしてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 石井絵梨は自分がモリーの発音を茶化した発言をしてもモリーは自分をほめてくれることをわかっているので、安心して発言している。

イ 石井絵梨は嫌われているモリーの授業中であつても積極的に発言することで、クラスメイトからの自分の評価をよくしようとしている。

ウ モリーが英語で出した指示を石井絵梨がモリー以上にうまく本格的な発音で言いなおすことで、モリーの英語力を馬鹿にしている。

エ モリーが英語で発言するたびに石井絵梨はモリーの物まねをしてクラスの笑いを取り、授業のムードを明るくしている。

問九

——線部⑦「モリーの罪」とありますが、これはどのような罪ですか。その内容の説明としてふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、その記号で答えなさい。

ア カタカナ英語であつても堂々と話し、英語愛を語るモリーの様子が、発音どころか文法もままならない生徒たちに劣等感を抱かせているという罪。

イ 生徒たちがひどい態度をとっているにもかかわらず平然と授業を続けることで、モリーは自分たちのことなど気にしていないのだと感じさせ、生徒に屈辱くつじやくを与えているという罪。

ウ カタカナ英語のくせに身振りだけは外国人ばりのモリーをみつともなく思い、人のよさそうな彼女に反発すること、生徒たちが自分の未熟さを自覚させられる状況を招いているという罪。

エ モリーは本当は傷ついているからこそ、発音や独身であることを馬鹿にされても気づいていないようにふるまうのではないかと生徒たちに感じさせ、やるせない気持ちにさせているという罪。

問十

——線部⑧「だって、そっちのほうが正しい」とありますが、この部分についての説明としてもつともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア クラスでバカにされているモリーに弱気な態度を見せて舐めなられないようにしている。

イ モリーから受けた不当な扱いに対してはくよくよするより反発すべきだと考えている。

ウ 自分を批難するモリーに屈することなく堂々としていたいと思っている。

エ 傷ついた気持ちを怒りに変えることで自分の正当性を守ろうとしている。

問十一

「バナミ」はどのような存在として描かれていますか。その説明としてふさわしいものを次のア～オから二つ選び、その記号で答えなさい。

ア 教室の雰囲気^{かんき}に違和感を覚えながらも、自分の立場が不利にならないよう振る舞っているのに、そうした自分の努力をあざ笑うようなモリーを許せずにいる。

イ 自分はモリーへのからかいに積極的に参加していないのに、事情を知ろうともせず、面と向かってモリーに逆らい見下す生徒もいるのに、自分だけ恥をかかされたことに傷ついている。

ウ 教室の空気をよく観察し生徒同士の力関係を理解したうえで目立たないように振る舞い、自分の身を守ることだけを考えている。

エ 自分にクラスの注目が集まることを必要以上に恐れており、注目を避けるためなら間違いだとわかつている振る舞いをすることもためらわない。

オ モリーへのいじめともとれるようなクラスメイトの態度に疑問を感じる一方で、生徒の反抗を意に介さないモリーにいら立ってもいるため、モリーを攻撃する他の生徒を批判せずにいる。

問題五

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(問題の都合で本文の一部を変えています。)

「母語」って、何でしょうか？ 社会言語学者の田中克彦さんは「母語」をこう規定しています。「生れてはじめて出会い、それなしには人となることができない、またひとたび身につけてしまえばそれから離れることのできない、このような根源のことばは、ふつう母から受けとるのであるから、『母のことば』、短かく言って『母語』と呼ぶことにする」。ひらたく言えば、幼児期に母親などの身近な人々から自然に習い覚え、自分の中に深く入り込んでいる言語、それが「母語」です。

「母国語」というよく似た言葉がありますが、「母語」とは違いますので区別してください。母国語は、その人が国籍を持っている国で定められている共通語(公用語)のことです。「国語」「国家語」と呼んだほうが正確です。日本では、「母語」と「母国語」が一致している人が多いので、区別しにくいかもしれません。でも、テニスで有名な大坂なおみ選手を思い浮かべてみると、両者の違いがよく分かります。彼女の国籍は日本ですから「母国語」は日本語です。でも、彼女の「母語」は英語です。

国際化が進むと、日本でも、母語と母国語とが一致していない人がどんどん増えてきます。ですから、①「母語」と「母国語」の区別は、日本でも必要になりつつあります。

— 中略 —

誰に強制されたわけでもなく、自然に親から子にバトンタッチされた

母語は、自由自在に操れるばかりでなく、後から学習して身につける言語の基礎になっています。

また、②母語は、その民族の世界観をつくっています。ここで言う世界観とは、自分の生きている環境をどう切り分け、カテゴリー化してとらえているのかということを意味しています。

私たちの目の前に広がる世界は、混沌として切れ目のない素材の世界です。それらの素材を、その民族にとって有用と思われるやり方で切り分け、言葉を与え、カテゴリー化し、網の目のようなネットワークを作り上げていきます。それが、その民族固有の世界観になっています。

たとえば、日本人なら、自分たちの生活に関わりのある自然現象に注目し、「梅雨」「嵐」「雷」「霞」「つむじ風」といった言葉を与え、これらを「天体の現象」などとしてカテゴリー化しそうです。あるいは、目の前にある木々に注目し、「松」「杉」「檜」「桜」などの言葉を与え、これらを「植物」というカテゴリーにまとめそうです。

— 中略 —

③ここで、どの国でも似たり寄ったりなんじゃあないのと疑問に思う方もいらつしやるでしょう。でも、違うんですね。たとえば、熱帯雨林に住むニューギニア島の民族を考えてみます。

(注1) カテゴリー化…分類すること。

(注2) 混沌…物事の区別がはっきりしないこと。また、そのさま。

(注3)

彼らは、熱帯植物の繁茂^{はんも}している中で生活しており、「植物」に属する言葉が極めて多い。しかも、彼らは薬草の知識がものすごく豊か。となると、日本人のように「植物」と一括^{ひとく}りのカテゴリーにしないで、「毒草」「食草」「薬草」、そして、それらのどれでもない「雑草」などと、複数のカテゴリーに分けてとらえている可能性があります。残念ながら、話し言葉しかないのです、それを目に見える形でここに提示することはできませんが。

あるいは、砂漠^{さばく}に住む民族であれば、植物は生えにくいので、日本語のように「植物」のカテゴリーは設定されていない可能性が高いですね。わずかに存在するかもしれない植物名は、どこか別のカテゴリーにまぎれこんでいるに違いありません。たまたま食べられる植物であれば、「飲食」に入れられているでしょう。

逆に、日本語にはない「鉱物^{こうぶつ}」というカテゴリーを設け、金・銀・銅をはじめ、ダイヤモンド・アクアマリン・オパール・ガーネットなどの宝石が集められている可能性が高い。日本では、まれに出てくる鉱物名は他のカテゴリーに潜^{もぐ}り込んでいます。たとえば、「銅」は、道具を作る時に必要なので、「雑物^{ざぶつ}」のカテゴリーに入っているというぐあいに。

— 中略 —

こんなふうには、どんな環境に住み、どんな生活をしているかによって、この世界の切り分け方は大きく異なっています。

母語を習得していく過程で、こうした民族固有の世界観も身につけて

(注3) 繁茂：草木が盛んに生い茂ること。

いきます。^④ この世界観は、よく分からないものに遭遇した時にも有効に作動します。

たとえば、見知らぬ土地を歩いている時、足元にちよつと変わった石が落ちてくる。しばらく観察しているうちに「隕石^{いんせき}」に違いないと見当を付けるのも、母語でのカテゴリー化ができてからです。

実は、平安時代の日本人も、すでに「隕石」を認識していました。『色葉字類抄^{いろはじらいしやう}』には出てきませんが、『続日本紀^{しよくにほんぎ}』の宝龜三年(七七二年)六月の項に「往々に京師^{しきり}(みやこ)に隕石^{いんせき}あり。その大きな柚子^{ゆのみ}の如し。」と記されています。このころ、大規模な流星雨現象が起きたようです。

母語によって培^{つちか}われた世界観は、すでに述べたように、その民族に代々継承^{けいしょう}されていきます。

— 中略 —

さらに重要なことは、それらを土台にして民族のアイデンティティがつくられていることです。

アイデンティティというのは、自分が特定の国や民族に帰属しているという意識(Ⅱ^⑤ ナショナル・アイデンティティ)と、自分がその国や民族の一員として機能しているという自己肯定感(Ⅱ個人レベルのアイデンティティ)を意味しています。

たとえば、あなたが外国に行った時、「ああ、自分は日本人だなあ」と感じたりするのが、ナショナル・アイデンティティ。「私は、しっかりと自分の仕事をやって、社会の一員としての役割をきちんと果たしている」と感じたりするのが、個人レベルのアイデンティティ。

アイデンティティはその民族固有の世界観や文化の伝統を包含している^(注4)ので、過去とのつながりや同胞とのつながりも感じさせ、本人に自信と誇りを与えてくれます。

言語学者のデイヴィッド・ハリソンさんは、^(注5) 次のような報告をしています。もはや消滅するしかない言語の最後の話し手について、「最後の話者たちの多くは、静かな自信を秘めてもいる。その自信は、古くからの伝統とつながっていることに由来する」と。

過去とつながっているという意識は、現在生きている人間に大きな安心感を与えてくれます。自分のルーツが担保されているからです。さらに、同じ母語を持つ同胞の存在は、自分は一人ではないという連帯感を与えてくれます。

だから、母語が何らかの原因で消失しかかると、自信や誇りを失いそうになります。たとえば、シンガポール。シンガポールは、英語を公用語の一つと定め、英語教育に特化した言語政策をとって、目を見張るような経済発展を遂げた国です。

でも、その一方で、^(注6) 思わぬ事態に直面しています。コミュニケーションの道具にすぎないと思って導入した英語が、^(注7) 英語という言語が持つ文化的影響をもたらし、土着の民族の伝統や文化を駆逐し始めたというのです。

シンガポールの新聞「聯合早報」は報じています、「(シンガポールの人々は) 誇りと自信を失って深刻なアイデンティティ・クライシスに^(注8)

(注4) 同胞：同じ国土に生まれた者。同一の国民。また、同一の民族。

(注5) 駆逐：追い払うこと。

(注6) クライシス：危機、難局。極めて不安定な状態。

直面している」と。また、地域学者の志村陽一さんも「シンガポールの国家としてのアイデンティティは何か、という根源的なアイデンティティ・クライシスに直面している」と指摘しています。

母語は、単なるコミュニケーションのツールではありません。アイデンティティを形成し、当人に自信と誇りを与えてくれる大切なものです。興味深い報告を付け加えておきましょう。言語学者のナザレス・アルフレッドさんは、^(注9) 同化政策を施され、母語を失いつつある部族に、彼らの母語と文化を教えています。こう述べています、「伝統文化を教えられた若者はより深いつながりを感じて、怒りの感情や暴力性が薄まるんです」と。

古くから伝わる民族の言葉と文化に触れると、祖先とのつながりを感じ、同胞との連帯感が得られ、自信と誇りを取り戻すからでしょう。

— 中略 —

日本語学者の金田一春彦さんは、今から三五年前にこう述べています、「日本語はだんだん影を薄くしていって、しまいにはなくなってしまうのではないかと心配する人があるようだ。ことに近頃、英語からの外来語がふえ、また生の英語が跳梁すること、英語にとって代わられるのではないかと懸念する人があるようだ。が、これは絶対に心配はいらない」と。

(注7) 同化政策：ある支配集団が、他の集団を自己の文化に同化せよとする政策。植民地などに対して行われた。

(注8) 跳梁：好ましくないものと思われものが勝手に振る舞うこと。

私も、そう言いたい。^⑧でも、私には言えません。時代が大きく変わってきています。世界共通語の英語に押されて、日本語はもっと危険な状況にさしかかっていると思えるからです。

英語教育学者の鳥飼玖美子さんも、述べています、「英語さえできれば、という思い込みが行き渡った社会状況は、母語の軽視に繋がらないであろうか。日本語の継承が揺らぐことはいないであろうか。日本語の将来は、英語を抜きには語れないことを直視せざるを得ない時代に入っている」と。

IT社会に突入してからは、英語が世界共通語になっています。そして英語を話したほうが、いや話せなければ、取り残される危険性が高くなっています。現に、日本の会社なのに、英語を社内公用語にすると明言し、実施している会社も出てきています。

アイルランドの人々が自らの意志でアイルランド語を捨てて英語にのりかえているように、日本人も自ら日本語を捨てて英語にのりかえる人が多くなる可能性があります。英語を話せなければ、世界に置いていかれるとばかりに。

そして、今や日本は小学校から英語教育を施し、中学校では英語の授業時間数が国語の時間数を超えています。政策は、「国民総バイリンガル」を目指す方向に動いています。それは、やがて、世界共通語の英語モノリンガルに連なる道なのです。^(注10)

そうした動向に対して、「ちょっと待って。この本で述べてきたよう

なりリスクがあるのよ。本当に英語にのりかえていいの？ 独自性を持ち、人類の貴重な財産でもある日本語を捨てて？」と、あなたに問いかけたかったのです。

は、自分の拠って立つアイデンティティを失うという形で、遠からぬ時期にやってきます。いな、刻々と日本人全体に、音もなく近づいてきています。その音なき近づくに早く気づいて、きちんと決意をしておかなければなりません。日本語を大切にしよう。日本語は自分を支えている言語なのだという意識をしつかり持とう。そのうえで、世界共通語を効率的に学んでいこう、と。

—— 山口仲美『日本語が消滅する』

(注9) バイリンガル…二か国語を、場面・状況に応じて自由に使いこなせること。また、その人。

(注10) モノリンガル…一つの言語だけを知っている人。

問一

——線部①「母語」と「母国語」について、後の問いにそれぞれ答えなさい。

- (1) 「母国語」について説明した次の文の（ ）に入れるのにふさわしい文を、——線部①よりも前の本文から三十字程度でぬき出し、最初と最後の五字で答えなさい。

母国語とは（ ）である。

- (2) 「母語」と「母国語」の関係性の説明としてふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、その記号で答えなさい。

ア 母語と母国語が一致している人が多い国においては、母語と母国語の区別はあまり意識されることがない。

イ 母語はその人を形作るうえで欠かせない要素であるが、母国語は国が定めるものであるので本人にとってあまり重要でない場合もある。

ウ 国際化が進むと母語と母国語の区別が必要となるのは、国籍がある国の母国語と育った環境で主に使われる言葉が異なる人が増えるからである。

エ 母語はさまざまな面でその人の中に深く入り込むが、あとから身につけるものや知ることへの影響が大きいのは母国語である。

問二

——線部②「母語は、その民族の世界観をつくっています」とありますが、これは「母語」がどのようなものかということですか。その説明としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 無数の自然現象を分類し名称を与え、正確に把握するための道具となるもの。

イ どの民族にも共通して存在するカテゴリーを見つけ出すための手段となるもの。

ウ 自分たちを取り巻く環境を理解するための基盤となるもの。

エ その民族の風習や伝統などを親から子へと受け継いでいくために必要となるもの。

問三

——線部③「ここで、どこの国でも似たり寄ったりなんじゃあないのと疑問に思う方もいらっしゃるでしょう。でも、違うんですね」とありますが、なぜ違うのですか。その理由をもっともよく表している部分を本文中から「〳〵いるから。」に続く形で四十五字以内でぬき出し、最初と最後の五字で答えなさい。

問四

——線部④「この世界観は、よく分からないものに遭遇した時にも有効に作動します」とありますが、これはどうしてですか。その理由の説明としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア よく分からないものを観察し、それが何かを推測するのに役立つから。

イ よく分からないものの前例が過去にもあったことを知る手助けになるから。

ウ よく分からないものがあっても、母語で表現することでカテゴリー化ができるから。

エ よく分からないものにも代々継承されてきた民族の歴史があることがわかるから。

問五

——線部⑤「ナショナル・アイデンティティ」とありますが、これは具体的にはどのようなものですか。その説明としてふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、その記号で答えなさい。

ア 個人に過去や同胞とのつながりを感じさせ、自信と誇りを与えてくれるもの。

イ 個人が異なる文化圏に行ったとき、自分の属する文化を意識させてくれるもの。

ウ 個人に民族文化や伝統への所属を意識させ、それを受け継いでいこうと思わせるもの。

エ 個人の自己肯定感を高め、自分の役割を果たそうという意欲を感じさせるもの。

問六

——線部⑥「次のような報告」とありますが、この報告の内容を説明したものとしてみっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 母語はその人のルーツを保証し、過去とつながっているという安心と自信、誇りを与えてくれるものである。

イ 自分だけが過去の伝統とつながっている状態は、自分を特別な存在だと思わせるが母語の消滅を防ぐ役には立たない。

ウ 同じ母語を話す同胞の存在を持たない話者は、自信や誇りを失いそうになるがそれは必ず乗り越えることができる。

エ 他者と連帯することは人に自信と誇りを与えるが、他者の存在によって成り立つその自信は不安定なものである。

問七

——線部⑦「思わぬ事態」とありますが、シンガポールの問題点としてのもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア シンガポールの人々はみずから進んで英語文化との同化政策をとったため、結果として近隣の民族とのつながりを失い孤立した。

イ シンガポールは言語をコミュニケーションツールとしてとらえ、全国全体で効率化を優先した結果、英語圏の文化にアイデンティティを見出し始めた。

ウ シンガポールは英語教育に特化した言語政策をとり、自国の言語を軽視した結果、アイデンティティの喪失の危機に直面している。

エ シンガポールの人々は経済発展を追い求めた結果、土着の伝統や文化といったものを軽視し自分たちの母国語を失った。

問八

——線部⑧「でも、私には言えません」とありますが、それはなぜですか。その説明としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 日本語だけではなく世界中の多くの国がすでに母語を捨て、世界共通語である英語を優先するようになっていいるから。

イ 三五年の間に日本でも英語さえできれば暮らしていけるようになり、日本語を学ぶ必要性がなくなりつつあるから。

ウ 日本人の生活がここ数十年で欧米化して、日本語のカテゴリー分けと実際の生活とがかけ離れてしまったから。

エ 三五年前と比べ、日本は国単位でも英語を重視する傾向が強まり日本語が捨てられる危険が高まったから。

問九

□に入る文としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 英語を母国語とする日本人を増やした結果

イ 日本語を母語として大切にしなかった報い

ウ 世界共通語である英語を喋れないデメリット

エ 国際化と日本文化のどちらを選べばいいかの結論

問十

この文章全体での筆者の考えとしてもつともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 筆者は現代における英語の重要性は認めつつも、母語として日本語を大切にしたいうえで英語を学んで行くべきだと考えている。

イ 筆者は国際化が進む日本での英語の地位向上を恐れ、英語の勢いを削いでもっと日本語教育に力を入れるべきだと考えている。

ウ 筆者は母語と母国語の区別を推進し、たとえ日本の公用語が英語になったとしても文化として日本語は継承すべきだと考えている。

エ 筆者は英語を公用語にするリスクを提示し、世界に置いていかれないことよりも個人のアイデンティティを守るべきだと考えている。